

8. 第12-13回高木レクチャーについて

第12回(2013年5月, 東京)の報告と第13回高木レクチャー(2013年11月, 京都)の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は, 世界から卓越した数学者を日本に招聘し, 専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし, 創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき, 日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています. 高木レクチャーをもとにした研究総説は, 査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。

この趣旨に基づき「高木レクチャー」の創設が2006年3月26日(日), 中央大学で開かれた日本数学会評議員会で承認され, 2006年11月に第1回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されて以来, これまでに12回の高木レクチャーが開催されています。

第12回高木レクチャー(2013年5月25日(土)-26日(日), 東京大学大学院数理学研究科)において,

L. Lafforgue (IHÉS)

「Kernels of Langlands' automorphic transfer and non-linear Poisson formulas (ラングランズ保型トランスファアの核と非線形ポワソン公式)」

S. Popa (UCLA)

「Classification and rigidity in operator algebras arising from free groups (自由群から生じる作用素環の分類と剛性)」の講演が行われました。

当日の参加者には, 予稿の「高木ブックレット」が配布されました. その最終版の研究総説論文は査読後, JJM に掲載される予定です. 講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ, web 上で一般公開する予定です。

○ 第13回高木レクチャー(予定)

日時: 2013年11月16日(土)-17日(日)
(16日14時~受付, 15時開始)

場所: 京都大学数理解析研究所

講演者:

• David Kazhdan (Einstein Inst. of Math.)
「The Importance of Categorification in the Representation Theory (表現論におけるカテゴリフィケーションの重要性)」

• Hee Oh (Yale Univ.)

「Apollonian Circle Packings: Dynamics and Number Theory (アポロニウスの球充填: 力学系と整数論)」

• Gang Tian (Princeton Univ., BICMR)

「Kähler-Einstein Metrics on Fano Manifolds (ケーラー・アインシュタイン計量とファノ多様体)」

組織委員: 小野薫, 河東泰之, 小林俊行,
斎藤毅, 中島啓

主催: 日本数学会

京都大学数理解析研究所

協力: Japanese Journal of Mathematics

錦秋の京都, とりわけ11月の週末は宿泊施設が混み合いますので, 十分早めに宿泊を予約されますことをお勧めします。

高木レクチャーのHP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/
で最新情報を掲載いたします。

JJM は, 2006年に3rd Seriesとして新しい創造を引き起こすような「研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました. 広く皆さまからのご投稿をお待ちしています. なお, 数学会会員はJJMの個別のバックナンバーを会員割引価格7500円(+税375円)で日本数学会事務局より購入することも可能です。

(小林俊行 記)